

会 議 録

会議の名称	第1回 子どもが輝く学校の未来構想検討委員会
開催日時	令和6年8月20日（火）
	13時00分 開会 14時35分 閉会
開催場所	斑鳩町役場 地下大会議室
議長等の氏名	委員長 安井 義和
	副委員長 森下 暁
出席者（委員） の氏名	田中 和則、吉川 健、井上 卓也、富井 孝則、清水 俊匡、 小村 尚己、橋口 里子、坂本 恵美、浦林 潔、久保 茂樹、 岡方 良一、下村 知子、遠山 健
欠席者（委員） の氏名	なし
事務局職員職 氏名	山本 雅章（教育委員会 教育長） 本庄 徳光（教育委員会 教育次長） 仲村 佳真（教育委員会 事務局総務課 課長） 清水 敬史（教育委員会 事務局総務課 学校教育指導主事） 柳井 孝一朗（教育委員会 事務局総務課 課長補佐） 下平 愛 （教育委員会 事務局総務課 主事）
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長選出及び副委員長の指名 ・諮問 ・審議事項 <p>(1) 学校の適正規模・適正配置等に関する基本的な考え方について</p> <p>(2) 町立学校施設における教育環境の基礎調査の結果について</p> <p>(3) 今後のスケジュールについて</p>
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長選出及び副委員長の指名 <p>委員互選により、安井委員が委員長に就任</p> <p>安井委員長の指名により、森下委員が副委員長に就任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諮問 <p>諮問文を手交</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項 <p>(1)、(2)、(3) について、事務局から説明</p>

<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例 ・資料2 斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会委員名簿 ・資料3 学校の適正規模・適正配置等に関する基本的な考え方について ・資料4 町立学校施設における教育環境の基礎調査の結果について ・資料5 今後のスケジュールについて
<p>議事の経過</p>	
<p>発言者</p>	<p>発言の要旨</p>
<p>山本教育長</p>	<p>1. 教育長挨拶</p> <p>本日は、公私ともにご多忙の中、委員の皆様方にはご出席を賜りありがとうございます。平素より、町教育行政の推進に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>今年の7月の天候は、統計が始まった1897年以降で昨年の記録をさらに上回り、最も暑い7月となったと報じられています。また、海水温の異常な上昇に伴う台風の発生や、南海トラフの「巨大地震注意」の臨時情報が発表されるなど、気候変動や地殻変動による「自然」に対して、改めて大きな脅威を感じざるを得ません。</p> <p>ところで、現在、全国の公立中学校では、国の施策に基づき「学校部活動の地域移行」が進められています。</p> <p>これは、一つに教師の働き方改革を背景としたものです。もう一つは、少子化の進展により、従来のように学校単位で部活動を運営することが困難になってきたためです。学校や地域によっては、部活動の存続が難しいという状況もあります。</p> <p>しかし、斑鳩町では、中学生のうち2つの中学校に通う779名中635名(82%)が部活動に参加しており、残りの18%の生徒はスポーツクラブやスポーツ教室、学習塾などに通っていると考えられます。</p> <p>本県全体を見ても、生徒数の減少や部活動の運営が困難になる</p>

<p>山本教育長</p> <p>事務局</p>	<p>状況が見られますが、斑鳩町では現時点でそのような問題は顕著ではありません。たとえば、奈良県中学校総体で野球部が優勝し、水泳など個人種目で全国大会に出場を決めた生徒もいます。</p> <p>そのため、早急に対策を講じる必要はありませんが、将来を見据えた対策を進めているところです。</p> <p>さて、本日、皆様に委員としてご就任いただきます第1回子どもが輝く未来構想検討委員会では、いわゆる、学校の適正規模及び適正配置について、ご意見を頂戴したいと考えております。よろしくお願ひいたします。</p> <p>皆様方の任期につきましては、学校の「適正規模及び適正配置」に関する方針の策定について、教育委員会から本検討委員会に諮問し、本検討委員会からの答申が終わる日までとなります。</p> <p>したがって、概ね令和7年度末までを想定しております。</p> <p>町立学校の施設や設備の老朽化や、将来的な児童・生徒数の減少が見込まれる中、将来の社会情勢を予測することが難しい時代ではありますが、委員の皆様方には、本町の子どもたちに安全で安心な「学びの場」を提供できますよう、専門的な見識と豊富な経験に基づき、様々なご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>重ねての話となりますが、学校施設は、教育において全ての子どもたちの可能性を引き出す極めて重要な場所であると同時に、地域のコミュニティの核でもあります。</p> <p>新たな、斑鳩町の学校施設の将来構想に基づき、子どもたちに安全で安心な「学びの場」を提供できますよう、委員の皆様には多大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>これをもちまして、開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>2. 委嘱書及び任命書交付 検討委員会委員に、委嘱書及び任命書を交付（15名）</p> <p>3. 委員紹介 出席者の紹介</p>
-------------------------	---

事務局	(検討委員会の成立について) 総委員数15名のうち、半数以上の委員が出席のため、斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例第6条第2項により当検討委員会が成立する。
事務局・ 全委員	4. 委員長選出及び副委員長の指名 委員長に、安井義和氏が委員互選され、承認
安井委員長	・委員長の就任挨拶 この度、委員の皆様からのご推薦とご承認を賜り、委員長という大役を務めさせていただくこととなりました、安井でございます。 本検討委員会では、委員の皆様からの貴重なご意見、様々な見地からのご提言をいただきたく、さらには、委員の皆様から賜りましたご意見ご提言を、学校施設の将来構想に活かしていけるように、精一杯、本検討委員会の運営に取り組んでまいりたいと考えております。 委員の皆様方には、何卒、温かいご支援とご協力のほど、よろしくお願ひ致しまして、委員長の就任の挨拶とさせていただきます。
安井委員長	副委員長に、安井委員長が森下暁氏を指名
安井委員長・ 山本教育長	5. 諮問 山本教育長から安井委員長に、諮問書を手交
事務局	(資料確認(次第、資料1～5))
安井委員長	(署名委員として、田中委員、吉川委員を指名)
安井委員長	6. 審議事項 (1) 学校の適正規模・適正配置等に関する基本的な考え方について、事務局より、説明をお願いします。
事務局	(資料3に基づき説明)

安井委員長	<p>事務局が説明した資料3に記載の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」は、文部科学省のホームページにて、40数ページから抜粋したものになります。もし、詳細に調べたいということであれば、そちらを参照してください。</p> <p>今の説明に関して、質問がある方はおられますでしょうか。</p> <p>また後でも構いませんので、次の審議事項に移ります。</p>
委員	【質疑なし】
安井委員長	(2) 町立学校施設における教育環境の基礎調査の結果について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料4に基づき説明)
安井委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の説明に対して、何かご質問やご意見はございますか。</p>
A委員	<p>審議事項(1)に重なる内容かもしれませんが、斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例の第1条、第2条を見たところ、本委員会は、適正規模・適正配置等について、諮ることが目的と考えます。本委員会において、資料4(P.16)に記載しております余剰教室についても、使い方の検討や取り纏めを行うのかお聞きしたい。</p> <p>余剰教室の使い方により、適正な教室数が変わり、小学校は3校のままでよい、あるいは、余剰教室の使い方が無いのであれば統合したほうがよいなど、意見が変わってくると思います。</p> <p>設置条例の第1条、第2条の適正規模・適正配置等の「等」の意味について教えて頂きたい。それによりアンケートの方法も変わってくるのではないかと考えます。</p>
安井委員長	事務局にて回答をお願いします。

事務局	<p>ご意見ありがとうございます。検討委員会では、現在、3つの小学校と2つの中学校がある中で、資料4にA3の地図がござい ますが、学校の配置はこれでよいか、また、学校の規模に関して、 現在の大きさでよいかについて、議論をしていただくこととなり ます。</p> <p>余剰教室につきましては、同じく資料4 (P.16) にて、例えば、 斑鳩小学校であれば、普通教室が、現在26教室あり、23教室を使 用し、3教室が余剰となっています。これは普通教室のみを計上し たものになりますが、余剰教室の使い方をどうするかという点も 本委員会でご意見を出していただき、検討していただいて良いと 考えます。</p> <p>また、その検討内容を踏まえた上で、学校の大きさや配置を全 体的に取り纏めたいと考えます。</p>
安井委員長	<p>補足になりますが、適正規模・適正配置を考える時に、基本的 には斑鳩町がどういった教育を進めるかということに大きく依存 することになると思います。</p> <p>本委員会の検討項目は、適正規模・適正配置ですので、先ほど のA委員の意見は、教育委員会へ投げかけ、そして、意見のキャ ッチボールをしながら進めるべきと考えます。</p> <p>単に文部科学省の教室数、生徒数だけで議論して決めるべきも のではないと考えます。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。資料を見る限り、斑鳩町の子どもの減 り方が少ない中、適正規模・適正配置を考える上で、余剰教室の 使い方も本委員会の皆さんからご意見を聞きながら、検討するこ とが、斑鳩町にとっても良いことではないかと考えます。</p> <p>例えば、学童保育の部屋がプレハブとなっているため、小学校 の余剰教室を活用する。また、安全面の考慮が必要なため先生に お聞きしながらになると思いますが、学校図書の施設についても、 司書さんの確保が非常に難しい状況であると認識しています。</p> <p>その中で、地域の図書館を小学校の余剰教室に入れ、地域の人 や子ども達が利用できるようにすることで、常に司書さんが在席</p>

	<p>できる状態を作るなど、色々な施設の特徴を考え学校施設に取り入れることで、結果として地域のコミュニティスクールの構想にもつながると思いますので、可能であれば、この委員会で余剰教室の活用についても検討していきたいと考えます。</p>
安井委員長	<p>ありがとうございます。私もA委員と同じような考えを持っております。</p> <p>余剰教室をどう使うかということだけでなく、あくまで学校教育を斑鳩町としてどう考えるかという中で、余剰教室をどう考えるか、どう使用するのか、地域のコミュニティとしてどう扱うのか、複合的な答申となるのではないかと思います。</p>
B委員	<p>余剰教室に関してですが、斑鳩小学校、斑鳩南中学校では、今年からコミュニティスクールを立ち上げています。学校に地域の方がボランティアとして入っていただいていますので、その場所に部屋ができ、そこを利用して、また利用される人が来るという形で、学校が地域のコミュニティを発信するためのコミュニティスクールになると思います。</p> <p>話は変わりますが、資料を見て間違いではないかなと思うところが1箇所あります。資料4（P.7）の斑鳩南中学校の令和7年から2年生、3年生の数値がずっと同じで、間違いではないでしょうか。下の合計の計算は合っていると思いますが、訂正があればよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>ご指摘ありがとうございます。数値を確認させていただき、改めて、お示しさせていただきます。</p>
安井委員長	<p>他に、ご意見等はありませんか。</p>
森下副委員長	<p>先ほどのコミュニティスクールに関連することになりますが、現状の余剰教室の観点から、学校がどうあるべきかというアプローチによる議論の仕方、構想という形で将来的にどうあるべきかという議論の仕方があると思います。</p>

	<p>本委員会の最終着地は、構想を作ることから、現状からアプローチしながら構想へ持ち込むという形もあれば、構想から折り返して現状の活用へ戻るといったアプローチもあります。</p> <p>議論の仕方としては、現状から構想に持ち込むことと、合わせて、構想という抽象的なレベルで議論していくという流れがあると思います。</p> <p>委員会では、現状のニーズを出して頂き、そのニーズを検討する過程で、現状で課題解決でき、構想まで持ち込まずに終わるものもあれば、構想という形で最終的に取りまとめていくものもあると思います。</p> <p>色んなアプローチがあると思いますので、忌憚のない意見を出し合いながら、最終的な構想を作っていくことになろうかと思えます。</p>
安井委員長	<p>できるだけ、本委員会では和気藹々と、皆さんが思っていることを発言して頂きたいと考えております。将来の斑鳩町の学校教育のため、それぞれの思いを発言して頂ければと思います。</p>
山本教育長	<p>例えば、近隣では、王寺町で、単独小・中学校を統合した義務教育学校と、南では小・中学校を別々とし連携した形の義務教育学校が運用されています。安井委員長が話された通り、子どもが通いやすい学校、子ども一人ひとりが自立した未来を創造したいと考えます。</p> <p>A委員の意見であります、学童保育を入れるなどの構想も考えていき、子どもたちが学校で学ぶことで、何ができるようになるのか、何をできるようになるかを気づかせるために何を学ばせるのか、どのように学ぶのか、その柱立ては事務局として考え、その内容への肉付けを委員の皆さんと一緒に考えていきたいと考えております。</p>
安井委員長	<p>ありがとうございます。斑鳩町がどのような教育方針とするか、義務教育をどう考えるかは、改めて教育委員会からお示しいただくわけではありますが、先程から議論に出ております、余剰教室の</p>

	<p>使い方も色々あると思いますが、今後のスケジュールから見ても、本委員会の開催間隔が広くとられていますのは、教育委員会からの発信とその結果を受け、本委員会として適正規模・適正配置を考えるという流れで、意見のキャッチボールをするための間隔であると考えています。</p> <p>適正規模・適正配置は、大きな課題であるため、学級数をどうするか、規模をどうするか、統合するかという視点だけでは、議論は難しいと思います。</p> <p>本日は第1回ということもあり、審議事項から外れてもよいので、何か意見があれば教えて頂ければありがたいと思います。</p> <p>また、後で振り返ってからのご意見でも構いません。</p> <p>それでは審議事項（2）を終わります。</p>
安井委員長	<p>（3）「今後のスケジュールについて」、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（資料5に基づき説明）</p>
安井委員長	<p>ありがとうございます。このスケジュールはあくまで案になります。</p> <p>次回の審議事項は、アンケートに関するものでありますので、実施方法や目的に関するものになるため、重要な会になると思います。</p> <p>今の事務局のスケジュールについてのご意見、確認はありますか。</p>
森下副委員長	<p>A委員、B委員からの話を私なりに整理しますと、新しい学校像、施設規模を考える際に、狭い意味で学校教育に限定するのか、それとも少し広げて例えば地域に開かれた形を考えるか、範囲の問題ではないかなと考えます。</p> <p>その範囲をどう考えるかについてもこの委員会の中で決めていくのかなと思いますので、狭い学校教育だけで考えるのではなく、忌憚な意見を出し合って、整理しながら纏めていく形で議論して</p>

<p>安井委員長</p>	<p>いければと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>本日は、適正規模・適正配置を考える際に、資料3にも地域のコミュニティのことも考える方がよいと書いてあり、私もまさにそうだと思います。</p> <p>例えば、皆さんは、学校に行く機会が多いと思いますが、PTAの集まりの場所や待合室がないので、そこで校長室等を使うこととなりますが、ゆっくりできない等の問題があると思います。</p> <p>あくまで、余剰教室があるからという意味ではなく、そういった場合に、地域の方やPTAの方がサロンのように使える場所として、余剰教室を使う形もあり、活用方法は色々あると考えます。</p> <p>日本の小・中学校の校舎の多くは、国の基準をモデルにして、50年程前にコンクリート製に建て替えられておりまして、その基準で建てられた学校の多くは、北側に廊下、教室を南側、さらにその南側に校庭など、ほとんど同じ形、即ち、片廊下一文字型となっています。</p> <p>斑鳩町でも、西名阪の法隆寺インターで降りると、すぐに斑鳩南中学校が目に入り、その姿は、校舎のワンパターンな平凡で無機質な箱形です。</p> <p>最近、全国の各地で、新しく建替えた校舎は素晴らしいと感じますし、学校ではない雰囲気もあり、私たち大人でも行きたくなります。</p> <p>建物が新しいというのは、イメージを払拭できるいい機会であり、また校舎を含めた学校施設等が魅力あるならば、子どもが学校へ行きたい、学校で友だちと過ごしたい、学校は楽しいと思うきっかけになると思います。</p>
<p>C委員</p>	<p>学校の設置・運営に関し、社会的なものを取り入れるか、教育に特化するかという話がありましたが、斑鳩町としては、幼稚園と保育園と小学校の連携を大事にしています。</p> <p>先日、その会議にて、幼稚園の園長さんや保育所の所長さんより、小学校と近接して交流することが、とても有効との話を聞いて</p>

<p>安井委員長</p>	<p>ています。</p> <p>しかし、小学校と幼稚園、保育園の距離が遠いとの問題もあり、社会的なものをどう取り入れるかという選択や話があります。</p> <p>さらには、小学校と中学校、またそれ以外の教育施設とどう連携するか、その視点も重要ではないかと考えます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>学校教育は、全員が経験しているものになります。例えば、野球であれば野球経験者しか話ができない内容もときにはありますが、私たち全員が教育を受けてきた、また自分の子どもが教育を受けているなど、経験があり、いろんな意見があると思います。</p> <p>私たちが答申する上で、本委員会では、可能な限り色々なご意見を出して頂き、集約できければと思います。</p>
<p>A委員</p>	<p>今後、斑鳩町の教育委員会からも資料が出てくるとは思いますが、財政の考慮も必要と考えます。PTAの立場だけで言えば、全校舎を建て替えて欲しいという思いがありますが、綺麗な校舎、綺麗な施設、全校にプールが理想となってしまうため、財政面の考慮も検討資料に含めるべきと考えます。</p> <p>例えば、プールであれば、夏場しか開設されないが、全ての小中学校に必要かどうか、例えば2時間授業としてバスで通い、その余った予算を他の教育に投資することについて、素案の時点で数値も含めて、比較考慮できた方が、本委員会としても判断しやすいと思われます。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の財政状況、今後の見通しは政策財政課が持っている財政シミュレーションで示すことができると思います。</p> <p>また、標準的な建て替え費用や補修し長寿命化を実施した場合の標準的な費用も示した上で、皆様に審議をすすめて頂ければと思います。</p>
<p>安井委員長</p>	<p>他にはいかがでしょうか。</p>

B 委員	<p>私自身、三郷中学校の建て替え、安堵町の小中一貫、6・3年制の廃止を検討したことを思い出しておりました。</p> <p>今、斑鳩町では教科担任制を実施していますが、小学6年生が中学校に通うこともできるようになると考えた場合、中学校の専門的な英語の先生が小学生に教えることが可能となります。国語も同じことが言え、結果として学力向上に寄与すると思います。</p> <p>生涯学習として実施しているカルチャースクールを小学校で実施することができれば、地域のコミュニティの場所になり、子どもたちはそれを見て、触れ合うきっかけにも繋がると思います。</p> <p>専門家を呼び込んで、来てもらうということは難しいと思いますが、常に地域の方や、子どもたちがいるということであれば、特別活動の時間を使い、交流ができ、外に出ていなくても、容易にできると思います。</p> <p>40年後の児童・生徒数を見ても、そこまで大きく減らないということであれば、リノベーションのような形も良いと考えます。</p> <p>建て替えは非常に大変であると思いますので、三郷町では、国の補助金をもらうために、体育館裏に備蓄倉庫、消防施設を設置して安く建て替えることをしていました。</p>
安井委員長	<p>ありがとうございます。本日は、山本教育長が出席していただいておりますので、本委員会の意見も踏まえまして、次回の委員会以降に、教育委員会として検討結果を教えて頂ければと思います。</p> <p>本委員会では、あくまで斑鳩の教育をどうするか、斑鳩町の教育は、生涯教育も含めた意味で考えておりますので、山本教育長には、次回以降の委員会にも出席をお願いいたします。</p> <p>他に皆さん何かありますでしょうか。審議事項(1)、(2)、(3)のほか、全体を通しての意見でも結構です。</p>
森下副委員長	<p>スケジュールについて、抽象的な流れで纏められているが、財政的な資料も事務局にて作成頂くことや地域のコミュニティ、学童保育、余剰教室、小中の連携等の具体的な意見が出ているため、今後、スケジュールを組む上で、どれに焦点を当てるのか、もう</p>

	<p>少し具体的にした方がよいのではと考えます。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。合計8回2年間で進めさせて頂く予定をしておりますが、第2回委員会では、具体化した上で、委員の方に分かりやすい形で、お示ししながら進めるようにします。</p>
安井委員長	<p>本日の審議事項は、現在の状況、文部科学省の考え方の説明がメインとなっております。時間は、1時間半から2時間程度であり、次回もこの程度の時間を目途としたいと考えます。</p> <p>時間も限られておりますので、今後、意見質問等があれば、各委員から事務局にメール等でも受け付けて頂ければと思います。</p>
事務局	<p>承知しました。</p>
安井委員長	<p>7. その他</p> <p>事務局から何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>第2回委員会の開催は、10月とし、次回も同じ13時から開始としたいと考えておりますが、皆さんの都合はどうでしょうか。</p>
全委員	<p>【意見なし】</p>
安井委員長	<p>それでは、第2回委員会も13時からの開催とします。</p> <p>本日の検討委員会を閉会します。</p>

※会議資料添付